



川に、陸地のでこぼこをならすはたらきがあるのは、どうして

川の水のはたらき

川の水のはたらきには、3つのはたらきがあります。川岸や川底の土や岩をけずるはたらき（しん食作用）、けずったものを下流へ運ぶはたらき（運ぱん作用）、運んできたものを川底に積もらせるはたらき（たい積作用）があります。

川の水の3つのはたらきによる

けずるはたらきは、川の水が高い所から、低い所へ流れる勢いで起こります。運ぶはたらきも、これと同じです。

積もらせるはたらきは、川の流れがおそくなった所で起こります。流れの勢いが弱くなるのは、土地が低くなってきた所です。

川の水の3つのはたらきによって、高い所はけずられ、けずられたものは運ばれて、低い所に積もります。それで、川には陸地のでこぼこをならす、はたらきがあるのです。

上流はけずる、下流は積もらせるはたらきが大きい

川の上流では、川が深い谷底を流れていることが多く、水の流れが速いので、けずるはたらきと、運ぶはたらきが大きくなっています。

川の下流では、水の流れがおそいので、土や砂などを積もらせるはたらきが、大きくなっています。（監修・国司 真）

